

# 11月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

朝晩が急に涼しくなってきました。園庭では、相変わらず？裸足で走り廻っている子もいますが、その子の足先を触ってみると冷たくて、これは幼稚園で働く者ならではの季節感だなと感じます。

この時期、年長クラスの子どもたちは勿論のこと、年少やさくらんぼの子どもたちにとっても幼稚園が自分の居場所になって、色々な場面での動きが大きく滑らかになり、子ども同士が接する機会や場面が増えてきます。楽しい場面も増えますが、時には出会い頭にぶつかって泣いたり、おもちゃの取り合いになったり、怒ったり泣いたり場面も増えてきます。

ある朝、喧嘩して泣いている2人が職員室に連れてこられました。でも教諭は、直ぐに仲直りに誘導しません。2人を並んで座らせて、喧嘩になった経緯とその時の気持ちを聞き取ります。上手く言葉に出来ないところを補ってやりながら、一人ずつから聞きとります。

教諭は、喧嘩になったときの、相手がどんな気持ちだったのかを、お互いに聞いて欲しいと考えています。大人の世界の喧嘩は、どちらに正当性があるか（時には、どちらに「力」があるか）を争うこととなりますが、幼稚園では、経緯における正悪を判定することよりも、お互いに相手の気持ちを思いやる機会にしたいと考えています。

とはいえ自分が怒っている時、その怒りの対象になっている人の気持ちを思いやるのは、とても難しいことです。自分の身に置換えて考えてみてもかなり「高い壁」に思えます。

でも子どもたちの心は想像以上に柔らかくて、そして教諭の援助もあって、易々と、とはいかないものの、喧嘩した2人でその壁を乗り越えていきます。その姿を見ていると、自分の心の頑なさを思い知らされます。

「ごめんね。」「いいよ。」

簡単なひと言が中々言えない自分の頑なさを、子どもたちに教えてもらいました。

年主題 『平和をともに』

<年主題聖句> 「キリストは私たちの平和であります。」

(エフェソの信徒への手紙 2章 14節)

11月主題 『ありがとう』

<聖句> 「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

(ローマの信徒への手紙 12章 15節)